

令和4年12月12日

各地区審判長
各学校バレー部顧問 様

県中体連バレーボール競技専門部
審判委員長 澤村 忠俊

中学校(中体連)における取り扱いの変更点について(連絡)

中学生の大会においては、他のカテゴリーと違う独特の取り扱いがありますが、本年度より変更になった点、今後変更になっていく点がありますので、ご連絡します。JA 共済杯についてもこの取り扱いで行いますので、ご確認をお願いします。

※ 独自の取り扱いがなくなり、一般に近づいているとご理解ください。

1 本年度より変更となった取り扱い

(1) ハドル(円陣)の組み方

コート内でハドルを組むタイミングは、ポジションチェックの前でも後でも制限はないが、ハドルを組む最大人数は、ファーストリベロ(チェック後すぐに交対するリベロ)を含めた7名までとする。ポジションチェック後であれば、そのままダイレクトにリプレースメント(リベロはそのままコート内に残り、交代選手だけがコート外に出てくる)を行っても良い。

※ ポジションチェックを行う際、サイドライン近くに立つリベロは、チェック後すぐにコート内の選手と交代する1名のみである(2名並ばせる必要はない。場合によっては、リベロがいてもすぐに交代しなければアップゾーンやベンチにいるケースもあり得る)。また、ポジションチェックの際に、ビブスを着けているリベロに対して「ナンバーを見せる」ように指示する必要はない(ナンバーのチェックは公式練習中に行っているため、公式練習中はビブスを着けさせないようにする)。

←この※印の内容は今年度からのものではなく、以前から周知していた内容です。

(2) タイムアウトの要求

タイムアウトの要求は、公式ハンドシグナルを示すだけで良い。

中体連では、これまで3点セット(椅子から立ち上がり、口頭で声を発しながら、公式ハンドシグナルを示す)を指導されてきたが、下線部が必要なくなった。

2 今大会(JA 共済杯)から採用する取り扱い

○ 中体連では、これまでリベオリプレースメントの際、サイドライン上で必ず立ち止まるように指導を行ってきたが、令和5年度よりその内容が変更(高校・一般と同じように、立ち止まらなくて良い)となる。この内容については、各県で先行して実施しても良いということなので、今大会から採用する。今後は、立ち止まったり、振り返ったりして一礼する必要もなく、走り抜けても構わないので速やかにリベオリプレースメントが行われるように、各地区・各チームでご指導ください。